

安全データシート（SDS）

1. 製品及び会社情報

製品名： BASARA ステンコロリン緑スーパーゲル（スプレータイプ）
（金属加工用切削油）

会社名： アルゴット株式会社

住 所： 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西 2－1－3

担当部門： 研究開発室 技術課

電話番号： 03-5459-1121

FAX 番号： 03-5459-1120

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類、GHS ラベルの要素

GHS 分類

物理化学的危険性

エアゾール： 区分 1

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性： 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 区分 1

特定標的臓器毒性（単回ばく露）： 区分 3（気道刺激性）

特定標的臓器毒性（単回ばく露）： 区分 3（麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）： 区分 1

環境有害性

水生環境有害性 短期（急性）： 区分 1

水生環境有害性 長期（慢性）： 区分 1

GHS ラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

極めて可燃性の高いエアゾール

高压容器：熱すると破裂のおそれ。

皮膚刺激。

重篤な眼の損傷。

呼吸器への刺激のおそれ。

眠気又はめまいのおそれ。

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

裸火または他の着火源に噴霧しないこと。

容器を密閉しておくこと。

容器を設置しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他危機を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 野外又は喚起の良い場所でだけ使用すること。
 取扱後は、汚染箇所をよく洗うこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

火災の場合：指定された消火剤を使用すること。
 漏出物を回収すること。
 特別な処置が必要である。
 気分が悪いときは、医師の診察/手当を受けること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤(石鹼)で洗うこと。
 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当を受けること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
 施錠して保管すること。
 日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性

高圧の引火性ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険性がある。
 非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発のおそれがある。
 燃えやすいガスが入っている。ガスが滞留すると爆発のおそれがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号
ステンコロリン緑スーパーゲル	20～30	—	—
n-ヘプタン	30～40	142-82-5	2-7
ジメチルエーテル	40	115-10-6	2-360

成分及び含有量

【ステンコロリン緑スーパーゲル】

植物油系合成油・植物油 : 60～80%
 硫黄系添加剤 : 10～30%
 潤滑添加剤 : 1～10%
 動物油脂系脂肪酸 : 7～14%
 植物油系脂肪酸 : 3～6%

組成式又は構造式：特定できない。

官報公示整理番号：企業秘密なので開示できない。

CAS ナンバー： 企業秘密なので開示できない。

TSCA： 企業秘密なので開示できない。

EC No.： 企業秘密なので開示できない。

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合：

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。

溶剤、シンナーを使用してはならない。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤(石鹼)で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。

眼に入った場合：

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

嘔吐物を飲み込ませてはならない。

医師の指示のない場合は、吐かせてはならない。

負傷者を安静にし直ちに医師の診察を受ける。

応急措置をする者の保護：

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

適切な換気を確保する。

医師に対する特別な注意事項

特別な解毒剤はない。症状に応じて対症的に治療する。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は、泡、粉末、炭酸ガスを使用する。

使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。

消火活動は風上より行う。

可燃性のものを周囲から素早く取り除く。

エアゾール製品の場合、高温で破裂する恐れがあるため、消火活動は距離を十分に取る。

消火を行う者の保護及び予防措置

適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

環境に対する注意事項

河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。

付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。

二次災害の防止策

- 漏出物を回収すること。
- 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- 付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

（取扱者のばく露防止）

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

（火災・爆発の防止）

- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 裸火または他の着火原に噴霧しないこと。
- 容器を設置しアースを取ること。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する措置を講ずること。

安全取扱注意事項

- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

接触回避

酸化性物質との接触を避けること。

衛生対策

- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

安全な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しい所に置くこと。
- 施錠して保管すること。

（避けるべき保管条件）

- 日光から遮断すること。
- 温度が40℃以上のところで保管しない。

安全な容器包装材料データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度

指定されていない。（作業環境評価基準(平成 21 年厚生労働省告示 194/195 号)）

許容濃度

- | | |
|--------|---|
| 硫黄系添加剤 | 日本産業衛生学会(2000)：10ppm（硫化水素として） |
| 潤滑添加剤 | 日本産業衛生学会(2010)：3mg/m ³ （鉱油ミストとして） |
| n-ヘプタン | 日本産業衛生学会(1988)：200ppm；820mg/m ³ |
| 硫黄系添加剤 | ACGIH(2001) TLV-TWA：10ppm（硫化水素として） |
| 潤滑添加剤 | ACGIH(2010) TLV-TWA：5mg/m ³ （鉱油ミストとして） |
| n-ヘプタン | ACGIH(1979) TWA：400ppm |
| | STEL：500ppm（中枢神経障害；上気道刺激） |

ばく露防止

設備対策

- 適切な換気のある場所で取扱う。
- 排気/換気設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具： 呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具： 保護手袋を着用する。

眼の保護具： 保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具： 保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：ゲル状

色： アイボリー色

臭い： 溶剤臭

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点: (ジメチルエーテル)-23.6℃

沸点範囲データなし

可燃性（ガス、液体及び固体）： 点火性あり

爆発下限及び爆発上限/可燃限界

爆発下限： 1.1vol %

爆発上限： 26.7vol %

引火点： (n-ヘプタン)-4℃

自然発火点： (n-ヘプタン) 285℃

分解温度データなし

pH データなし

動粘性率データなし

蒸気圧データなし

密度及び/又は相対密度: 0.70-0.74g/cm³

相対ガス密度(空気=1)データなし

20℃での蒸気/空気-混合物の相対密度(空気=1)データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

データなし

化学的安定性

エアゾール製品の場合 40℃以上になると缶が破裂する恐れがある。

危険有害反応可能性

酸化性物質等と触れると反応する危険性がある。

避けるべき条件

加熱、スパーク、裸火、及びその他の発火源は避ける。

混触危険物質

酸化性物質

危険有害な分解生成物

燃焼により、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄化合物等その他低分子モノマーなどの有害ガスが発生する可能性がある。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

経口毒性： 区分に該当しない。(rat LD₅₀>3080mg/kg (潤滑添加剤))
(mouse LD₅₀=5000mg/kg (IUCID,2000) (n-ヘプタン))

経皮毒性： 区分に該当しない。(rat LD₅₀>2000mg/kg (潤滑添加剤))
(rabbit LD₅₀=3000mg/kg (IUCID,2000) (n-ヘプタン))

吸入毒性(ガス)： 区分に該当しない。(vapor: rat LD₅₀=25132ppm/4hr (環境省リスク評価 6 巻： 暫定的有害性評価シート、2008)) (n-ヘプタン)

吸入毒性(蒸気)： 利用可能な情報に基づく限り分類できない。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号：1950
 正式輸送名：エアゾール、可燃性
 分類または区分：2.1
 指針番号：126
 特別規定番号：63；190；277；327；344；381

環境有害性

MARPOL 条約附属書Ⅲ-個品有害物質による汚染防止
 海洋汚染物質（該当/非該当）：該当

国内規則がある場合の規則情報

船舶安全法： ガス類 引火性ガス 分類 2 区分 2.1
 航空法： 高圧ガス 引火性ガス 分類 2 区分 2.1

15. 適用法令

消防法 危険物 第4類 引火性液体第1石油類 危険等級Ⅱ（指定数量：200L）

化審法 特定化学物質 監視化学物質 優先評価化学物質： 非該当

化学物質排出把握管理促進法： 該当（ヘプタン）

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防規則（特化則）： 非該当
 有機溶剤中毒予防規則（有機則）： 非該当
 名称表示危険/有害物： n-ヘプタン
 名称通知危険/有害物： n-ヘプタン
 別表第1 危険物（第1条、第6条、第9条の3関係）
 危険物・引火性の物（ $-30^{\circ}\text{C} \leq \text{引火点} < 0^{\circ}\text{C}$ ）
 危険物・可燃性のガス（令別表第1第5号）

毒物劇物取締法： 非該当

海洋汚染防止法： 油分排出規制（原則禁止）

水質汚濁防止法： 油分排出規制（30mg/L 許容濃度）ノルマルヘキサン抽出分として検出される

下水道法： 動植物類排出規制（30mg/L 以下）

高圧ガス保安法： このエアゾール製品は容器内容積が1リットル以下、及び35℃において圧力は0.8MPa 以下のため高圧ガス保安法の適用除外となります。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律： 産業廃棄物規則（拡散、流出の禁止）

16. その他の情報

参考文献

1. Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
2. Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN
3. IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)
4. IATA 航空危険物規則書 第26版（2021年）
5. 2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
6. 2021 TLVs and BEIs. (ACGIH)
7. 2020 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）
8. Supplier's data/information
9. Hazard Communication Standard-2012 (29 CFR 1910.1200)
10. JIS Z 7252：2019 GHSに基づく化学品の分類方法。
11. JIS Z 7253：2019 GHSに基づく危険有害性情報の伝達方法-ラベル作業場内の表示及び安全データシート SDS。
 本 SDS は JIS Z 7252 2019、JIS Z 7253 Z2019 に準拠しています。

本記載の内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。本製品を扱う場合は記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じてください。

尚、本製品安全データシートは安全や品質の保証書ではありません。